

## I セアカゴケグモ

### 【国内における確認状況】

- ・42 都道府県で確認されている（平成 28 年 10 月 7 日現在）。
- ・東京都内で見つかっているが、繁殖・定着は確認されていない。

### 【生態：生息地など】

- ・日当たりが良い場所や暖かい場所にある物陰や隙間に生息。
- ・昆虫等を捕食

### ●注意すべき場所の例

- ・ベンチの裏
- ・自動販売機の下
- ・ブロックやフェンスの隙間
- ・エアコンの室外機の下
- ・排水溝のふたの裏や側面
- ・外に置いてあるサンダルの中 等

### 【形態：大きさや特徴】

- ・雌の体長は約 7～10mm 雄の体長は約 4～5mm（体長とは、頭部の先から腹部の先までの長さであり、足の長さは含まない）。
- ・毒性が強く、有毒なのは雌のみで、雄は毒が弱い。
- ・全体が黒色で、大きな球状の腹部の背面に目立った赤色の縦条がある。
- ・腹面に赤い砂時計状の模様がある。

### 【原産地・分布】

- ・原産地はオーストラリア。
- ・国内分布：42 都道府県（平成 28 年 10 月 7 日現在）北海道、岩手、宮城、福島、群馬、栃木、茨城、埼玉、東京、千葉、神奈川、静岡、山梨、愛知、岐阜、新潟、石川、福井、滋賀、京都、大阪、三重、奈良、和歌山、兵庫、鳥取、島根、広島、岡山、山口、香川、徳島、愛媛、高知、福岡、大分、長崎、熊本、佐賀、宮崎、鹿児島、沖縄



セアカゴケグモ（成体）



“Red Back Spider Latrodectus hasselti” By graibeard



セアカゴケグモ（亜成体）

## 健康被害の具体例

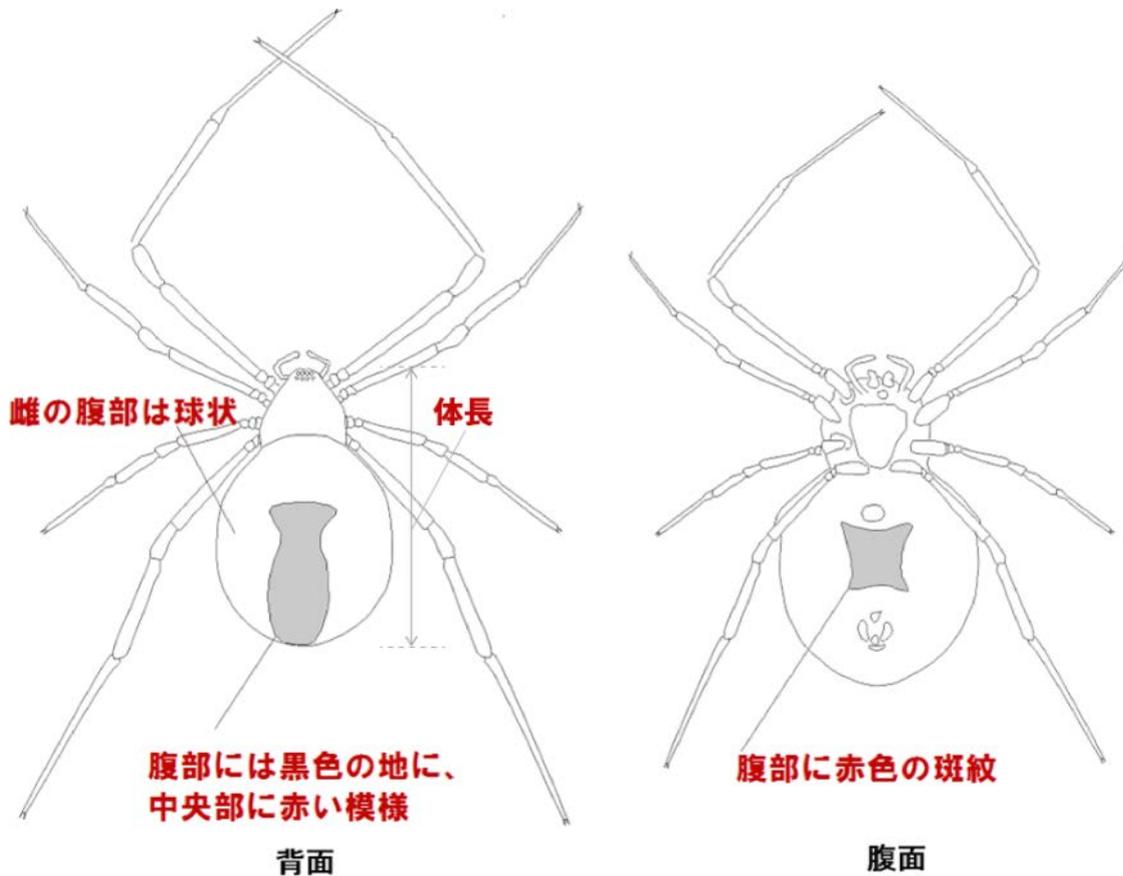
- ・刺咬により、局所の疼痛、熱感、掻痒感、紅斑、硬結をきたし、区域リンパ節が腫脹する。
- ・通常は、数時間から数日で症状は軽減するが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがある。
- ・重症例では、進行性の筋肉麻痺が生じる。

## 被害を受けた場合の対処法

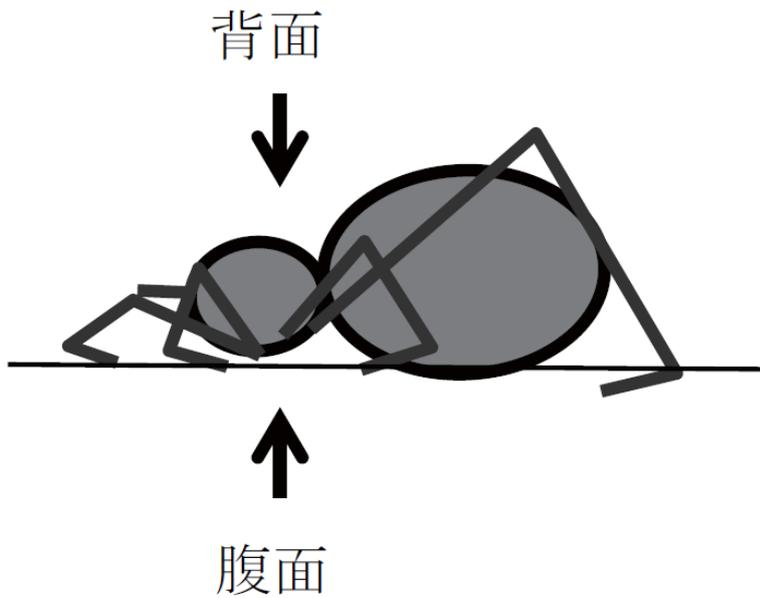
- ・流水や石けん水で洗い、医療機関を受診

## 特徴・間違えやすい類似種との識別点

### 【セアカゴケグモの特徴】



・クモの体（横からみたところ）



### 【類似種の特徴】



類似種（1）オオヒメグモ



類似種（2）フソグモ

"*Synaema globosum*"By joaquinportela



類似種（3）マダラヒメグモ

"*Steatoda triangulosa*"By promiseminime



### 駆除方法

- ・ピレスロイド系の家庭用殺虫剤を散布する。
- ・皮膚に触れないように靴等で踏み潰す。
- ・熱湯をかける。



危険な外来生物 Webサイトへ

この資料についてのお問い合わせは、下記までご連絡ください。

東京都環境局 自然環境部計画課 / TEL 03-5388-3548 FAX 03-5388-1379